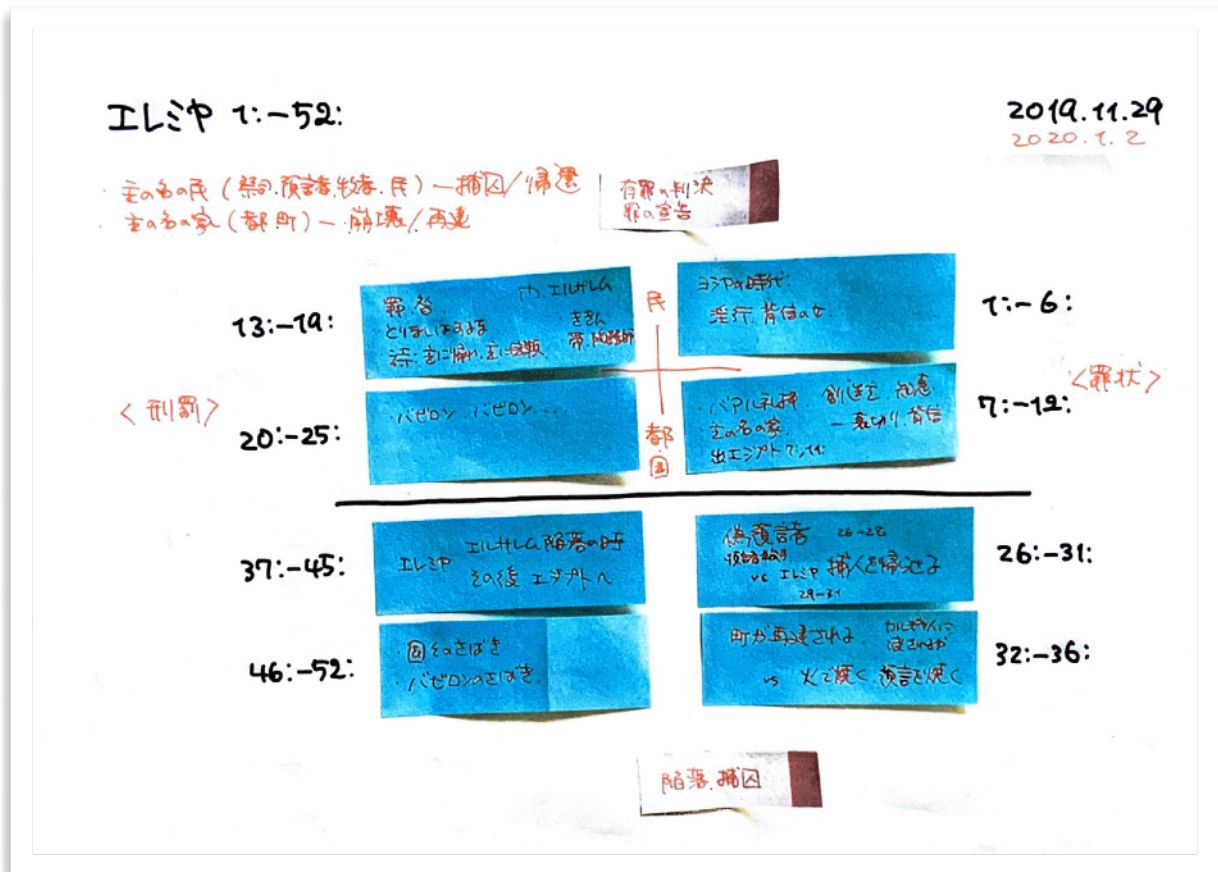




エレミヤ書 1:-52:



エレミヤ書の全体の流れです。エレミヤ書の章の流れ、章が1から52まであって、時代、年代があります。年代ごとに区分はありますが、時間順には並んでないということでした。

それで8段落に分けられるということをやりました。それぞれの段落の内容を取り出して分けました。前半25章までの4つ、これは有罪だという罪の宣告、判決ですね。有罪だという判決がなされて、それに基づいたさばきが来るというのが後の4つということなんです。

それを別の形で並べるとこうなります。1から6、7から12、13から19、20から25。この4つの段落が一つのまとまりです。26から31、32から36、37から45、46から52。この4つが後半の一つのまとまりです。有罪の判決と陥落、捕囚ということですね。前半の4つ、後半の4つが、どういう関係になっているのだろうかということ、それぞれの段落を分析しながら確認していくということになります。

ぱっと見は、全般の1234が、後半の1234に並行しているようにも見えます。この1つ1つの段落、この1から6、7から12というこの一つの区切りの部分をこれから見ていって、その後に、もう一度全体を見て、この段落間の関係はどうなっているのかということを探ることになります。